

水と災害／東京・大阪・中京圏

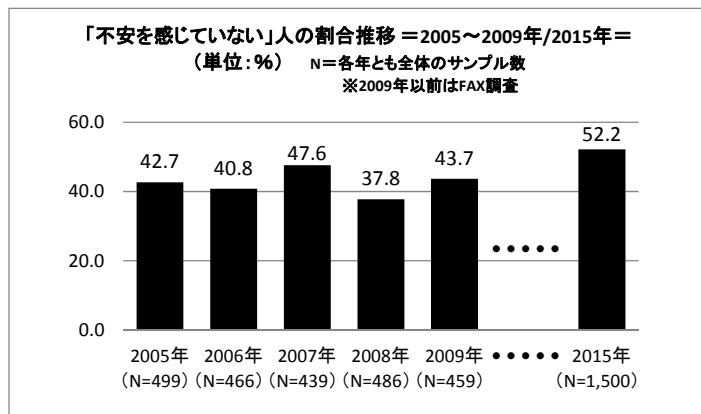
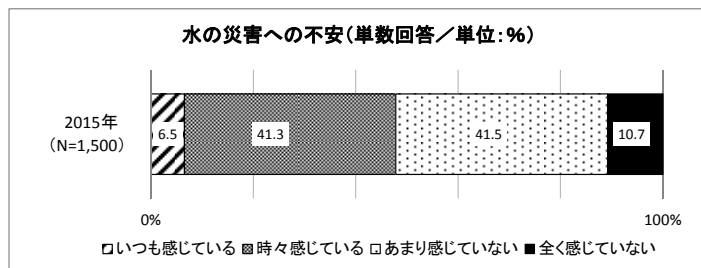
Q.水の災害への不安は？（4択）

◇「不安を感じていない」人が過半数

昨今の気象状況の変化を受け、水の災害への不安について、2009年以降の調査を実施しました。

その結果、「いつも感じている」(6.5%)、「時々感じている」(41.3%)、「あまり感じていない」(41.5%)、「全く感じていない」(10.7%)となり、「あまり感じていない」と「全く感じていない」の合計で、半数以上(52.2%)の人が、水の災害への「不安を感じていない」ことがわかりました。

“不安を感じていない”人に着目し、同様の調査を行っていた2009年以前の推移をみると、平均的に4割前後で推移しており、6年ぶりとなった今回の調査で、初めて5割を超える結果となりました。“不安を感じない”人の割合はこのまま増える傾向にあるのか、来年以降どう変化するのか、今後も注目していきたい調査項目です。



Q.不安に感じている災害は？（22択＋その他＋特に不安を感じたことはない）

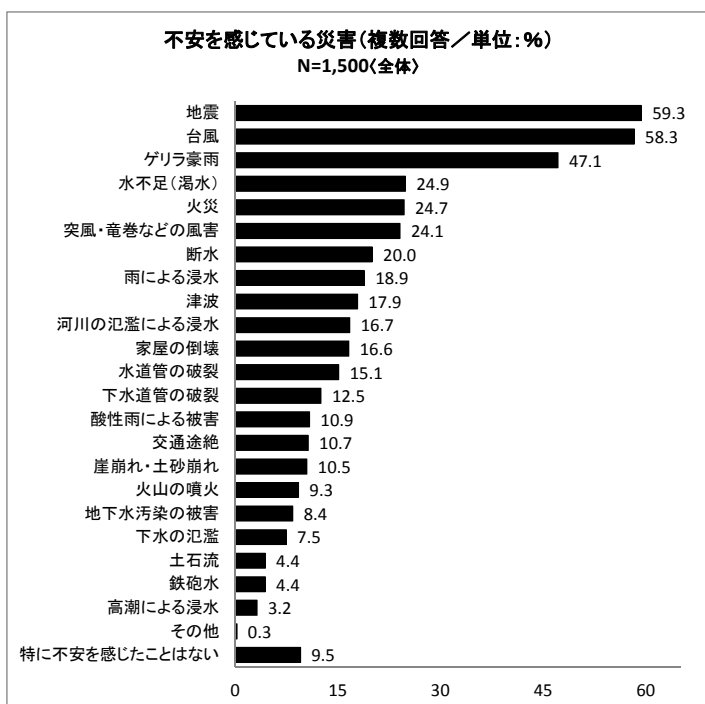
◇トップ5のうち、3項目が水に関する災害

◇最も不安に感じている災害は、「地震」が断然の1位

今回はじめて、水関連に限定せず、不安に感じている災害全般について聞いたところ、1位「地震」(59.3%)、2位「台風」(58.3%)、3位「ゲリラ豪雨」(47.1%)、4位「水不足」(24.9%)、5位「火災」(24.7%)となり、トップ5のうち3項目（「台風」「ゲリラ豪雨」「水不足」）を水に関する災害が占めました。

次に、「特に不安を感じたことはない」の回答者を除いて「最も不安に感じている災害」を聞いたところ、こちらは「地震」(49.2%)が、2位「台風」(14.8%)以下を大きく引き離して断然のトップとなり、多くの人の心に潜む地震への恐怖を垣間見ることができました。

居住地別でも、中京圏、大阪圏のトップ5は全体と同じでしたが、東京圏のみ、4位に「突風・竜巻など」(3.0%)、5位に「水不足」(2.8%)が入るなど、若干の違いがみられました。



	全体 (N=1357)	東京圏 (N=461)	中京圏 (N=441)	大阪圏 (N=455)
1位	地震 (49.2)	地震 (53.4)	地震 (44.0)	地震 (50.1)
2位	台風 (14.8)	ゲリラ豪雨 (11.7)	台風 (18.4)	台風 (15.4)
3位	ゲリラ豪雨 (12.2)	台風 (10.8)	ゲリラ豪雨 (12.2)	ゲリラ豪雨 (12.7)
4位	津波 (4.1)	突風・竜巻など (3.0)	津波 (4.8)	津波 (4.6)
5位	河川の氾濫による浸水 (3.3)	水不足 (2.8)	河川の氾濫による浸水 (4.5)	河川の氾濫による浸水 (3.7)

※東京圏の「水不足」「津波」は、同率5位

Q.災害時に対する水の備えは？（7択＋その他＋何もしていない）

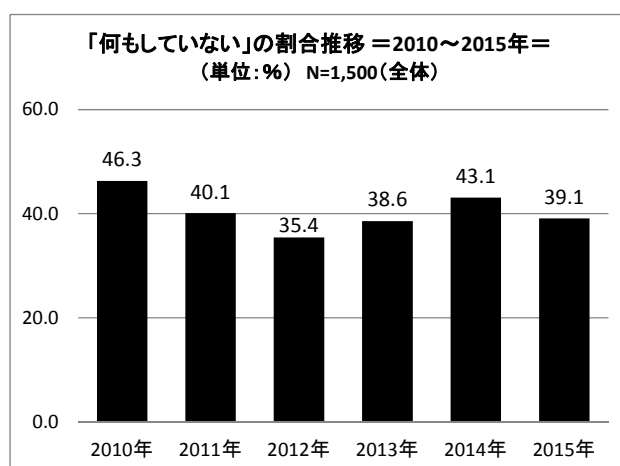
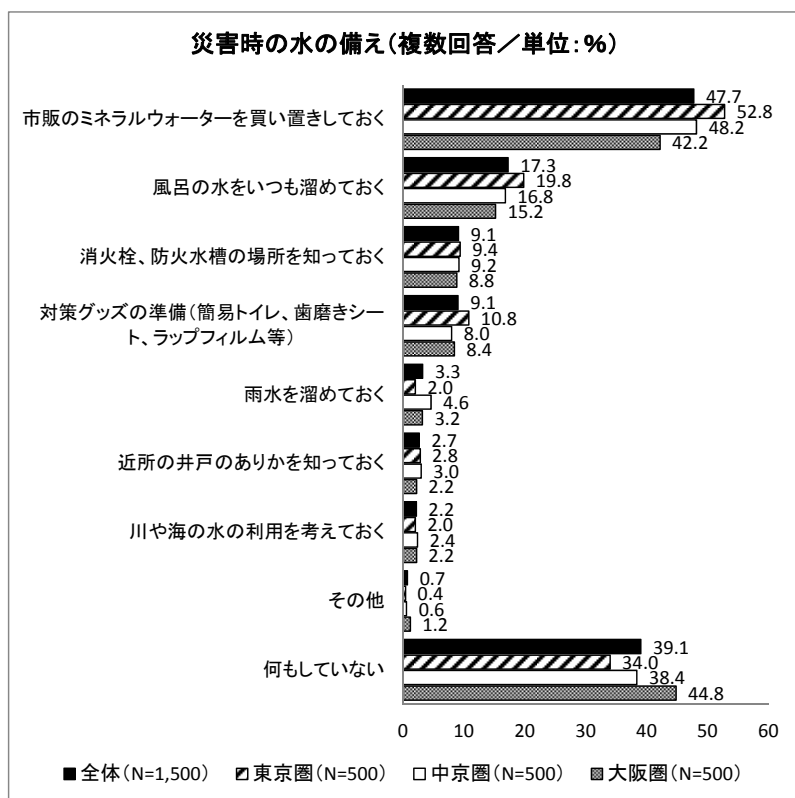
◇依然として約4割が、“備えなし”

東京圏の“ミネラルウォーター買い置き”は5割台に回復

「災害時に対する普段の水の備え」については、「ミネラルウォーターを買い置きしておく」が昨年より2.5ポイント増の47.7%でトップとなりました。昨年トップだった「何もしていない」は、昨年より4.0ポイント減の39.1%で2位でした。

居住地別では、東京圏で昨年4割超だった「何もしていない」人が34.0%に減少し、47.8%にまで落ち込んでいた「ミネラルウォーターの買い置き」が、52.8%と5割台に回復しました。

2010年以降で「何もしていない」人の割合推移をみると、2010年に5割近く(46.3%)あった数値が、東日本大震災を機に、2011年(40.1%)、2012年(35.4%)と減少し、その後、2013年(38.6%)、2014年(43.1%)は増加に転じるといった変化はあるものの、全体的には震災の有無にかかわらず、常に4割前後の人が「何もしていない」という傾向がみられます。



Q.ハザードマップの認知は？（3択）

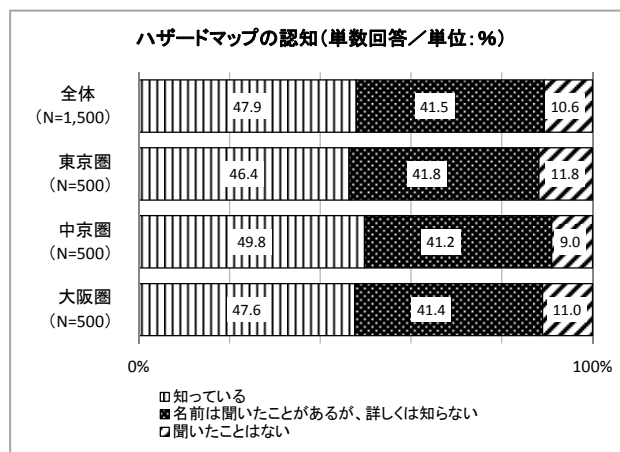
Q.居住地域のハザードマップの有無は？（3択）

Q.ハザードマップの活用状況は？（4択）

◇内容も含めた認知率が、5割近くまで増加

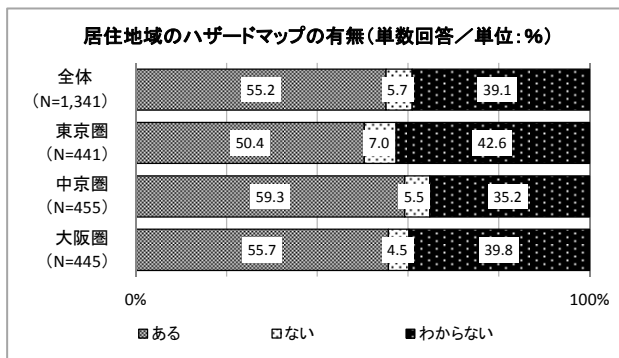
昨年4割に満たなかったハザードマップの認知率(昨年39.3%)。今回は、内容も含め「知っている」人が47.9%と5割近くまで増加し、「名前は聞いたことがある」が41.5%(昨年比5.2ポイント減)、「知らない」人は10.6%(昨年比3.4ポイント減)でした。

なお、居住地別の数値に、大きな違いは見られませんでした。



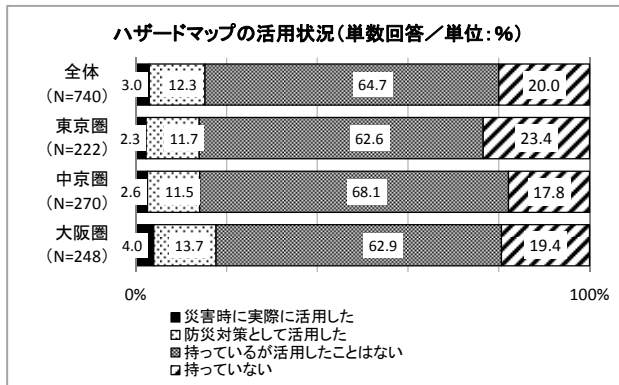
◇依然として約4割が、自分の住む地域のハザードマップの有無が「わからない」

前問のハザードマップを「聞いたことはない」人を除いて、居住地域のハザードマップの有無について聞いたところ、「ある」が昨年から5.9ポイント増の55.2%、「わからない」が3.8ポイント減の39.1%となりました。数値は下がったものの、依然として約4割が、自分が住んでいる地域にハザードマップがあるかどうか「わからない」人ということになります。



◇実際の災害時も含めた活用率は15%程度

前問で居住地域にハザードマップが「ある」と回答した人を対象に聞いたハザードマップの活用状況は、「災害時に実際に活用した」が3.0%、「訓練時に防災対策として活用した」が12.3%で、これらを合計した活用率は15.3%でした。認知率は約5割のハザードマップですが、その活用率は、まだまだ充分とは言えないようです。



水と文化／東京・大阪・中京圏

昨今、日本を訪れる外国人観光客が増加しており、2020年の東京オリンピックに向け、この流れはさらに加速することが予想されます。そこで、迎える側である日本人の自国文化に対する意識を探る一環として、外国人に紹介したい“日本の水文化”について、今回初めて聞いてみました。

Q.水と関わりの深い日本の文化は？ (15択+その他)

Q.外国人に紹介したい「水と関わりの深い日本の文化」は？ (15択+その他)

◇1位は「そのまま飲める水道インフラ」

“日本の水文化”としてイメージするものは何でしょう？

まず、「水と関わりの深い日本の文化」について、選択肢を提示して聞いたところ、1位は「そのまま飲める衛生的な水道インフラ」(55.7%)、2位「のどかな水田風景」(48.6%)、3位「温泉や銭湯などの入浴習慣」(44.3%)と続きました。なお、「水道インフラ」は、性別、年代別、居住地別のすべてでトップでした。

